

OWL-VOICE

- VOICE
- 特集 …… グローバル人材育成特別コースがスタート
- シリーズ …… 卒業生メッセージ
- 投稿
- 知ってますか？

No.
16
2014



目次

VOICE

- 「研究大学強化推進事業」に採択！
世界で研究の量、質ともに存在感を示す大学
「リサーチ・ユニバーシティ：岡山大学」を目指して
戦略的プログラム支援ユニット リサーチ・アドミニストレーター (URA) 佐藤 法仁 …… 1

特集

- グローバル人材育成特別コースがスタート
グローバル人材育成院 院長 荒木 勝 …… 4

シリーズ 卒業生メッセージ

- Shall we dance ?
IOM 国際移住機関ソマリア事務所
大学院環境学研究科 博士前期課程 資源循環学専攻
熊丸 耕志 (2008年3月修了) …… 12
- 人の輪を広げる所
姫路赤十字病院
医学部保健学科 長久 剛 (2004年3月卒業) …… 13

投稿

- 海外の大学紹介
宇宙飛行士をめざし、薬学部、博士課程そしてアメリカへ
大学院医歯薬学総合研究科 (薬学系) 博士後期課程 2 年次生
日本学術振興会 特別研究員 山田 翔也 …… 14

知ってますか？

- L-café, 平成 25 年 5 月にオープン, 10 月に来場者 1 万人達成！
L-café はもう英語じゃ物足りない！！
言語教育センター 准教授 宇塚 万里子 …… 17
- ネットで広がる図書館の世界
附属図書館学術情報サービス課 主査 竹下 啓行 …… 19

編集後記 …… 21

(注) 役職等は、平成 26 年 3 月 1 日現在のものです。

「研究大学強化推進事業」に採択!

世界で研究の量、質ともに存在感を示す大学

「リサーチ・ユニバーシティ:岡山大学」を目指して

国立大学法人岡山大学学長特命（研究担当）
 戦略的プログラム支援ユニット（URA）
 リサーチ・アドミニストレーターのり
 佐藤 法仁



1. 「研究大学強化促進事業」とは?

平成 25 年 8 月に、文部科学省が大学の研究力向上を図るため、全国から 22 の大学・研究機関（17 国立大学、2 私立大学、3 研究機関）を採択し、今後 10 年間にわたり研究強化につながるための助成を行う事業です。わが国から世界で戦えるリサーチ・ユニバーシティ（研究大学）をより多く輩出し、日本の研究力の存在感向上と研究を通してより良い社会の構築に活かすという点があります。この事業に岡山大学が採択されたことによって、より研究に重点を置くというミッションが文部科学省に認められたということでもありますので、岡山大学の研究ブランドの土台が確立できたと思います。

2. 「研究大学強化促進事業」で、特に何をやるの?

岡山大学の学部数は、全国の国立大学の中で 2 番目に多い 11 の学部があり、それに 1 つのコースや 7 つの大学院研究科を有しています。13,000 人以上が学び、約 1,300 人の教員が在籍しています。そのため、「研究」と言っても多岐に渡る分野に広がっています。そのすべての分野を今回の事業でカバーすることはできません。そのため、現在の岡山大学の強みを生かすことが大切です。

その強みを判断するには、文部科学省が使用している様々な指標や岡山大学が独自に調査・分析した結果などから判断することになります。

図 1 は、各分野の Top10%論文の掲載数を 1997～2001 年と 2007～2011 年で比較し、その伸び率をグラフ化したものです。このグラフから読み取れるのは、岡山大学が「旧帝大」と呼ばれる大学よりも

伸び率が良い点、特に、「物理学分野」、「基礎生命学分野」は実績があることが伺えます。

これらの点を考慮して本事業ではまず、「極限量子」、「超伝導・有機エレクトロニクス」、「生体光変換システム」(図 2) の 3 つの研究の核 (コア) をしっかりと固めて行く予定です。

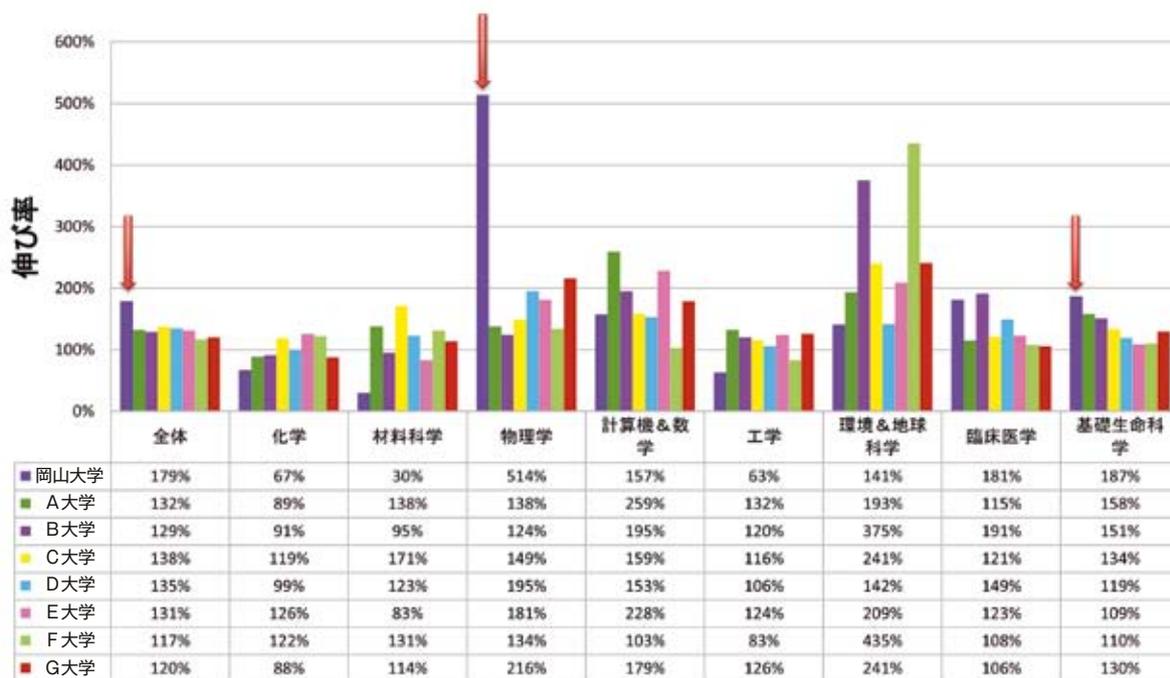
3. 3つの研究のコア以外の強みは?

① 臨床研究中核病院「岡山大学病院」

もちろんまだまだ岡山大学の強みはあります。岡山大学病院は、平成 25 年 4 月に厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」に採択されています（同先行事業を合わせて、全国 15 拠点が採択）。これは、基礎研究だけではなく、臨床分野も含めた医療イノベーションを推進するための事業であり、基礎医学と臨床医学、双方の強みを持っているからこそ採択に至り、その成果をより期待されている分野でもあります。

② 革新的イノベーション創出拠点「アドバンスドナノカーボン複合構造材料研究センター」

社会に革新的なイノベーションを創出するための大型産学連携事業のひとつである文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」には、岡山大学が独自に研究を進める革新的な炭素材料研究拠点である「アドバンスドナノカーボン複合構造材料研究センター (ANCS)」が採択されており、社会を劇的に革新する世界最先端の研究が岡山の地で精力的に進められています。



文部科学省科学技術・学術政策研究所 (NISTEP)
「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」調査資料を元に作成

図1. Top10%補正論文の伸び率 (1997~2001年と2007~2011年の比較)

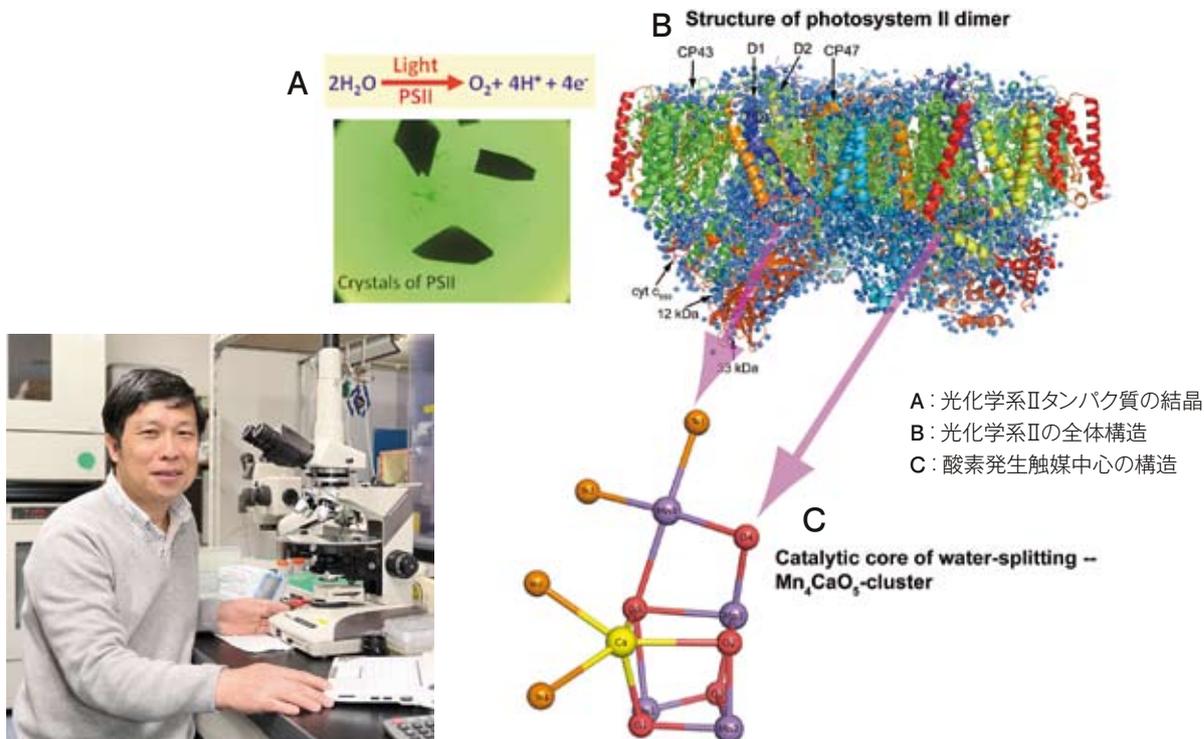


図2. 沈建仁 大学院自然科学研究科 (理学系) 教授・光合成研究センター長:

光合成の仕組みにおいて、水分解・酸素発生反応を引き起こす「光化学系II」タンパク質の構造を世界最高の解像度で解析し、光を利用した水分解の機構を解明した研究成果は、アメリカの国際科学雑誌Scienceの2011年に得られた画期的な10の科学成果、「Breakthrough of the Year 2011」の一つに選ばれた。

③ 資源植物科学研究所

植物の生育を抑制する因子を「ストレス」といいます。このストレス研究の世界的拠点が倉敷市にある資源植物科学研究所です。農学系唯一の文部科学省附置研究所として、国内外の数多くの研究者から注目されています。例えば東日本大震災により津波被害農地対策として、塩や湛水に強く良好な生育を示す耐性オオムギの開発など、震災復興とリンクした最先端の研究などを行っています。

④ 地球物質科学研究センター

地球や太陽系惑星の起源、進化、ダイナミクスについての世界最先端の研究を行うのが、鳥取県三朝町にある地球物質科学研究センターです。国際共同研究が大変盛んであり、所属している大学院生も多くが外国人です。セミナーや会合はもちろん、講義もすべて英語で行われ、「岡山大学（国内）にいながら海外留学」という面もあります。この国際共同研究の高さは世界から信頼されており、例えば小惑星探査機「はやぶさ」が持ち帰った小惑星イトカワの試料などの分析も当センターで実施されています。この世界的な強みを生かし、国際共同利用・共同研究拠点となるべく研究・整備を進めています。

⑤ 理化学研究所のSPRING-8, SACLA, 京との連携

その他、主な学外連携としては日本が世界に誇る放射光施設であるSPRING-8, X線自由電子レーザー施設SACLA, スーパーコンピューター「京」などの国家基幹技術の施設に近く、多くの共同研究、人的交流が行われています。世界の最先端技術を用いた研究は革新的な研究成果を産み出す可能性がとて高いため、今後も密な連携を深めて行く計画です。

4. 人文・社会科学系の研究は？

前述したとおり、岡山大学は11の学部があり、その中には文・経・法・教育学部、いわゆる人文・社会科学系を主とする分野がある「総合大学」です。そのため、人文・社会科学系の研究推進・向上も

重要です。考古学など伝統的な学問領域が強い分野の増強(図3)やビッグデータと教育との融合による革新的な文理融合研究の推進、革新的技術の社会実装や科学政策判断の際に必要な合意形成の研究など、様々な取り組みが成されています。

「研究」というと、自然科学系にスポットが当たることがありますが、決してそうではありません。文部科学省の「研究大学強化促進事業」でも人文・社会科学系領域が選定指標に含まれています。これは言うまでもなく、研究というものには「文系・理系」という分野に関係なく存在し、評価される対象であるということになります。岡山大学は総合大学です。「文系だけ」、「理系だけ」という考えではなく、それぞれの強みを生かし、それぞれが異分野融合し今までにない研究成果を社会に還元していく使命があると考えています。



図3. 岡山大学鹿田キャンパスで奈良時代末(8世紀後半)の井戸から2枚の絵馬が出土

奈良時代のものとしては瀬戸内で初めての発見(上は絵柄を明確にするために画像修正したもの。下は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが復元した絵馬) 【岡山大学埋蔵文化財調査研究センター】

5. 研究の推進・向上を図るマインドは？

Curiosity（好奇心）と Dream（夢）は、研究を行ううえで大切なものです。そして、誰もが持ち得ることのできるものだと思います。他方、研究の推進・向上を図るマインドとして大切なのは、「どうしたらできるのか」という戦略方法を考え出せることだと思います。いい方が少し乱暴ですが、「できる」、「できない」の判断はある程度の人誰でもできます。しかし、「どうしたらできるのか」という点を導き出すことはとても難しいです。「この研究が社会をどのようによくするのか、そのためには何をいつまでにやらなければいけないのか、それはどうしたらできるのか」という一連のマインドを常に持ち、実行することが、岡山大学の研究の推進・向上だけではなく、ひとりの研究者としての成長にもつながるものではないかと考えています。

このマインドを育成するために、研究者が未来を語り対話する「岡山大学フューチャーセッション」や異分野研究者の出会いの場である「いちよう並木サロン」など、さまざまな催しを行っています。また、戦略的広報を本格的に実施し、自分たちの研究成果が社会からどのように見られているのか、あるいは海外での展示会・発表会において海外の人からどのように受け止められているのかなどという点をしっかり把握し、今後行うべき研究の道筋をより明確にする施策を講じています。もちろん、これにも文系・理系などという区別はありません。どの分野においても、マインドをデザインできる思考を常に持つことが重要だと考えます。

6. 次世代の革新的研究を担う学生の皆さんへ

これまで述べたように、岡山大学にはいろいろな研究の強みがあります。そして、まだ、強みを掘り起こしていない分野も十分にあり得ます。強みを更に強くする、強みを掘り起こす、弱みを強みに変える、さまざまなことができる大学です。無関心に見えるものを結合させて、新しいものを創り出すことができるのも、総合大学の強みでもあります。在学されている間に1回は（いつもだと嬉しいです）、「自分がどう行動したら、何ができるのか」ということを考えてみてください。それは単に研究に活かされるだけではなく、教育や社会活動などさまざまな面で役立つと思います。

岡山大学が、世界で研究の量、質ともに存在感を示す大学「リサーチ・ユニバーシティ：岡山大学」となれるかどうかは、次世代を担う皆さん次第というのはとてもおもしろいことではないでしょうか。そんなチャンスが沢山転がっているのが岡山大学です。ぜひマインドを鍛えてください。



図4. 岡山大学リサーチ・アドミニストレーター
前列左：森田潔学長、右：山本進一理事（研究担当）・副学長

リサーチ・アドミニストレーターとは

University Research Administrator (URA) は、大学において研究者とともに研究活動の企画や研究成果の活用促進などを総合的にマネジメントする人のことです。「岡山大学における URA」は、学長直属として配置され、研究担当理事・副学長とともに行動する執行部の研究プレーン組織です。「学長特命（研究担当）」として、研究面で学長を補佐し、本学における研究方針の策定や大学改革の推進など経営的判断に立って行動します。現在、岡山大学には5人の URA が配置されており（図4）、今回の文部科学省「研究大学強化促進事業」の採択などにおいても、中核的な役割を果たしています。

グローバル人材育成特別コースがスタート

グローバル人材育成院
院長 荒木 勝（理事・副学長）

平成 25 年 4 月、グローバル人材育成院が設置され、グローバル人材育成特別コースがスタートしました。これは、世界の舞台で活躍できる人材を育成するための副専攻コースで、岡山大学の国際化の一環として準備されてきました。平成 25 年 5 月に全学の新入生から 53 人を選抜し（同年 10 月より国際バカロレア入学者が加わり、現在は 54 人）、現在集中的に特別授業を行っています。カリキュラムは、国際的なコミュニケーション能力を高めるための高度な語学教育や、国際的にも通用する教養を身につけるための様々な科目によって構成されており、本学の国際交流協定校への短期留学や長期留学を必修としています。すでに、今年度履修生は短期留学（海外大学でのサマースクール）を終え、一部の学生は来年の長期留学（約 1 年）の準備に入っています。また、国際的なプロジェクトやディベートの場に積極的に参加する人材も育ってきています。

1. 岡山大学のグローバル教育

社会のグローバル化に適応するだけでなく、グローバル化を追い風に世界で活躍できる人材を育成することは、本学にとっても、日本全体にとっても緊急の課題です。現在、日本のほとんどの大学がグローバル教育に力を入れていますが、本学は特にユニークな人材育成の試みを行っています。

まず第一に、グローバル教育のための特別な学部や研究科を設置するのではなく、副専攻としてコースを設置していることです。そのことにより、全ての学部の学生に本コースを履修するチャンスが生まれます。また、将来社会で活躍する上での基礎となる専門教育を受けた上で、「付加価値」としてグローバルな素質を身につけることができます。すなわち、国際的に活躍できる各分野のスペシャリストを育てるというコンセプトです。



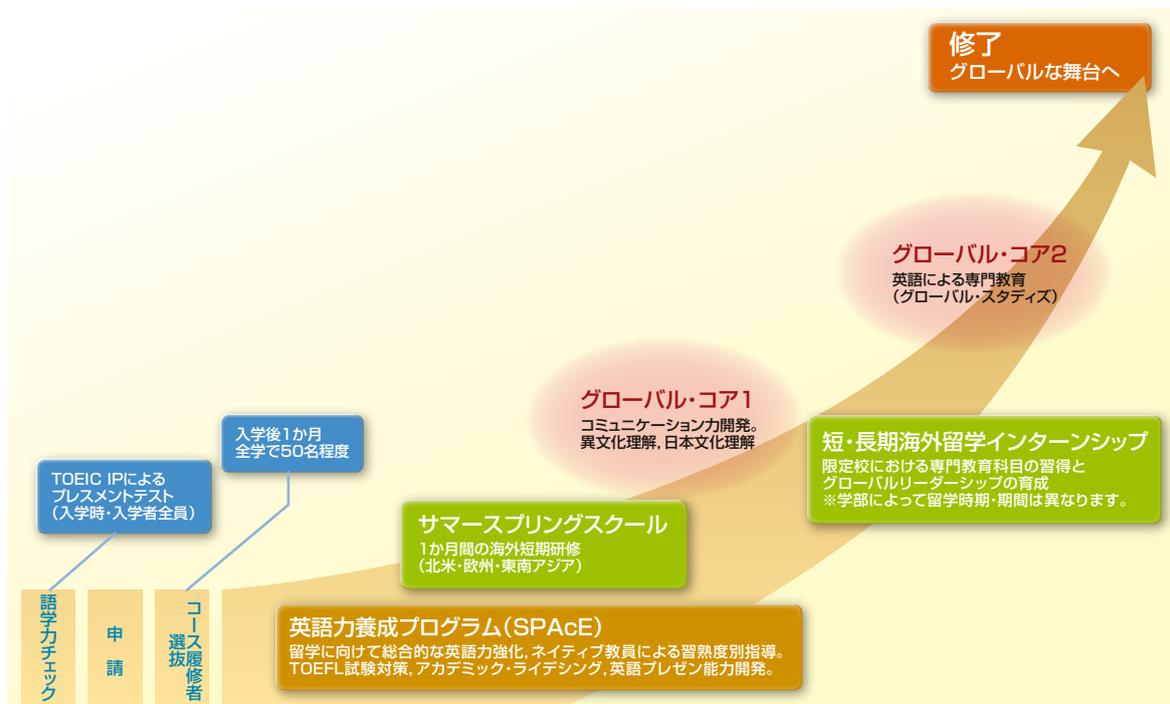
OKAYAMA UNIVERSITY

グローバル人材育成特別コース

GLOBAL HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT

コースのロゴマーク

第二に、日本の文化、地域理解を深めるメニューを盛り込んでいることです。グローバルに活躍するためには、まず豊かな知識と教養を育まなければなりません。とりわけ、自らの文化や価値観をしっかりと発信できる力を身につけなければなりません。アクティブラーニングの手法を取り入れた多彩なプログラムで、こうした力を養い育てていこうというのがこのコースの大きな特徴です。



コースの概要

2. コースの紹介

本コース（副専攻）のコア・カリキュラムは、異文化の理解，コミュニケーション力の育成，日本及び地域文化の理解，日本の自然及び地域産業に関する理解などのリベラルアーツ，並びに最先端のテーマを扱う専門教育科目を骨子として，全34単位で構成されています。

英語力養成プログラム (Special Program for Academic English) : 20単位

留学先として希望する大学が設定する TOEFL iBT スコア等の取得とともに，英語で授業を履修し英語で日常生活が送れるよう総合的な英語力を修得します。

サマー/スプリングスクール : 1単位

外国で日常生活を送ることができるレベルの語学力を身につけます。また，異文化を実体験することにより，異文化への理解を深めます。

グローバル・コア科目 : 12単位

グローバル・コア1では，自分の価値観に基づき外国語で論理的にコミュニケーションをとれる能力に加え，自国の文化や歴史に関する正しい知識を身につける。また，他国の文化を理解する寛容な精神を育成します。さらに，受講者同士の議論やプレゼンテーション等を通して多様な見方や考え方，価値観に触れ，意思決定と合意形成の力を身につけます。

グローバル・コア2では，英語で行われる講義を理解し，グローバルに活躍するための質の高い専門知識を習得します。

海外留学・インターンシップ : 1単位

グローバルに活躍できる国際人としての視野を広げ，異文化を理解するために必要とされる知識，技能，態度を身につけます。英語で行われる専門科目の講義を理解し，研究を行うことができます。これまでに培った能力を活かして，自ら課題を設定し，解決する能力を身につけます。

3. 今年度の取り組み

今年度（初年度）は、5月にコース生募集を行い、書類審査、TOEICの得点を基礎に全学で53名を選抜しました。主な取り組みは以下の通りです。

SPAcE

SPAcE (Special Program for Academic English) は、英語力を養成するプログラムです。本コースのために特別に設けられたもののうち、1年次履修の Independent Study Class (自律学習クラス)、Academic Class 1・2 (英米の大学に近い形の授業)、TOEFL Preparation Class (TOEFL 受験準備) が本年度に開講されています。また、来年度以降には、2年次履修のための Intercultural Relations and Communication (異文化理解のための実践的授業) も開講予定です。

サマースクール

8月下旬から9月下旬にかけて、ヨーク大学（イギリス）、ビクトリア大学（カナダ）、チュラロンコン大学およびカセサート大学（タイ）の3か国にて合計31名のコース生が研修を行いました。このサマースクールに先だって、現地での研修を実り多いものとするために、出発前に複数回のセッションを行いました。これらのセッションではとても活発な議論がなされ、サマースクールへの期待が大きく見



ヨーク大学(イギリス)での授業風景



帰国報告会の様子

られました。また、本年10月30日には合同の帰国報告会を開催し、研修成果の報告を行いました。報告した学生たちは、研修にとっても満足した様子で、研修前に比べて大きく成長した姿が見られました。また、英語を話すことに対する抵抗もかなり低減されたようで、英語で報告を行った学生もいました。

海外留学について

平成26年度の海外留学派遣のためのEPOKの募集・審査が本年10月に行われ、コース生18人が審査を経て派遣候補となり、それぞれの派遣先大学の基準に達するように勉学に励んでいるところです。なお、最も早い学生は、平成26年3月にアデレード大学（オーストラリア）へ留学が決定しています。

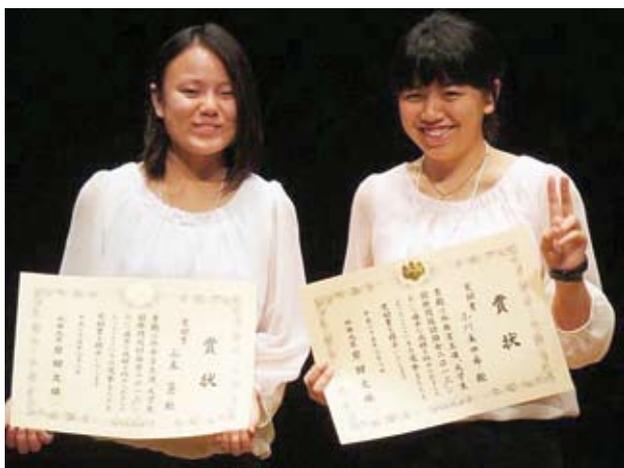
アクティブラーニング

本コースに所属する学生達は、国内外に関わらず、「国際」「学生」をキーワードに様々な公式大会に出場しています。平成25年度はグローバル人材育成特別コースが設立された初年度でしたが、すでにいくつか結果を残すことができました。

(1) 外務省主催大学生国際問題討論会2013

この全国討論会では、立論書を提出した37チーム中、上位4チームが最終大会に選拔されました。本コース生からは法学部1年生の小川未由季さんと

山本蒼さんペアの白桃組が出場し、奨励賞に輝きました。参加者の2名は、討論会を通して、「グローバルとは何か」がなんとなくつかめた気がしたとのことでした。加えて、「地方の大学だから」こそ、都市の学生が気づかないより細かく具体的な問題と課題を発見、研究し、日本全国、世界に発信していきたいと抱負を語りました。



奨励賞を受賞した小川未由季(右)さんと山本蒼(左)さん

(2) 第4回国際学生リーダーシップシンポジウム

法学部1年生の江利川悟さんと文学部1年生の藤井雅利さんは8月、フィリピン・マニラで開催された「第4回国際学生リーダーシップシンポジウム」に参加してきました。社会貢献活動に興味のある世界中の学生達との交流を通じ得たものは大きく、江利川さんは国際的な平和活動に今後、関わっていく予定で、藤井さんは地域の持続可能な教育活動にすでに参加しています。

(3) 英語プレゼンテーションコンテスト

本コース生は、全国学生英語プレゼンテーションコンテストや全日本英語スピーチコンテストなどにも積極的に参加しました。現在も、ESDに関わったり、国際機関のコンテストに応募する立案書を作成したりと活躍中です。

今後は、さらに可能性を広げることを目標に様々な国際舞台に挑戦していきます。一例として、

JICA 大学生国際協力フィールド・スタディ・プログラムに1名が参加することを始めとして、国際学生リーダーシップシンポジウム、国際的なコンテスト、スタディープログラムなどハイレベルな大会へ果敢に挑戦していく予定です。

語学力を上げることは本コース生にとっては必須です。英語の授業以外にも、サマースクールに参加することで実践英語の習得にも努めました。そこでTOEFLスコアの2か月間の伸びを分析したところ、4割の学生が20点以上もアップしたという素晴らしい結果を出しました。

本コース生は、国際舞台に立つために、必要不可欠である語学力はもとより、国際知識の構築や国際舞台での経験を培ったり、コミュニケーション力をつけたりと日々努力しています。時にはグループで、時には個人でと活動形態は様々ですが、自発的に興味を持って行動することを前提に、真のグローバルを追求していく姿勢は変わりません。各自がグローバルの定義を考え、それぞれに合ったオーダーメイドのグローバルを作り上げていきます。



コース生専用学習室での茶話会の写真

4. コース学生の声

英語が大嫌い

中村俊介君（医学部医学科1年次生）



私は「英語が大嫌い」でした。では、なぜそんな私がわざわざこのコースを選んだのか。それは、今後の人生において「英語ができないから…」という理由で、自分の可能性を閉ざしたくなかったからです。英語は避けて通れぬ道、ならばいっそのことハードな環境に身を置いて自分を高めてやろう、と。そして今、毎日の英語の授業とその課題に取り組む中で、自分にとって英語が自然なものに感じられるようになりました。まだまだ発展途上ですが、ここで揉まれていなければ、きっと未だに英語を避けたままだったと思います。確かにハードな毎日ですが、「本物」を身に付け、グローバルに活躍する力を養うには最高の環境だと思います。

グローバルな視野を持ちたい

織田薫さん（工学部化学生命系学科1年次生）



大学生活において、外国人と自由に意見を交換し、柔軟な視野を持ちたいと思いこのコースに入りました。このコースを通して、学部学科を問わず、留学や国際関係などに興味のある人たちと知り合い、会話していく中で、視野が広がっていきました。サマースクールを通して、文化習慣などが日本と異なることを知り、外国の様々なことをもっと知りたいと強く思いました。今後は多くの外国人と触れ合い、日本と外国のことに詳しくなっていきたいと思いません。



コースの仲間から日々強い刺激

澤晃太郎君（工学部機械システム系学科1年次生）



私はこのコースに入り、学部を越えて、優秀な友人と出会うことができ、彼らから日々刺激を受け多くのことを学んでいます。当初、「グローバル人材」というと、英語が話せるというイメージがありました。しかし、このコースで学び、友人、先生方から数多くの意見を聞くことで、それだけではないということを実感できました。

結果、今は英語学習にとどまらず国内外の活動にも積極的に参加しています。ほかの誰でもない、自分自身が思い描くグローバル人材になれるよう今後も頑張っていきます。期待しててください！

刺激的で充実

釜谷茉由子さん（法学部法学科1年次生）



グローバル人材育成特別コースに入って約8ヶ月が過ぎようとしています。この8ヶ月という期間は私にとって、一言では表せないくらいすごく刺激的で充実したものでした。私と同じように海外留学、英語の習得を目指す様々な学部の学生たちとの出会い、自分の英語力を伸ばしていける授業、サマースクール、色んなことがありました。一人で頑張るのも大切ですが、みんなで切磋琢磨しながら自分の英語力を磨いていけるのが、私がこのコースに入って良かったと思う点です。

5. コースメニューの多様化

現在、コースメニューの多様化を目指して、様々な準備が進行中です。たとえば、目的、習熟度に応じた語学プログラムの開発、JICA 現地調査などへの積極的な参加、留学生と合同で行う国内サマースクールや地域視察・討論、国外インターンシップの開発、などです。

また、日中韓での国際交流プログラムであるキャンパス・アジアとのジョイント企画、L-Café（学内ランゲージ・カフェ）との協力などです。このように、本学のキャンパス自体をグローバル化する試みも進行しています。

Shall we dance?

くままる こうじ
熊丸 耕志

大学院環境学研究科 博士前期課程 資源循環学専攻 (2008年3月修了)
International Organization for Migration (IOM) : 国際移住機関ソマリア事務所



皆さん、初めまして。私は鹿児島生まれの福岡育ちですが、岡山大学、そして大学院に計6年間お世話になりました。OU-Voiceを通して在學生、そして高校生みなさんにお話させていただく機会をいただけて大変嬉しく思います。現在は国際公務員として国際移住機関という組織に所属してアフリカで水衛生に関する仕事をしています。私の当時の学生生活、そして今にいたる軌跡を簡単に紹介させていただくことで、みなさんに何か感じるものが、共通するものが生まれると嬉しいなあと思います。

学部生時代

私は環境理工学部にも所属していましたが、在學生の方をご存知のとおり、1、2年生時は一般教養科目を通して、自然科学とは異なる分野、心理学や国際交流と平和、といった分野についても学ぶことができました。高校生時代と異なり、自分で物事を選択できる幅が増え、大学の講義にアルバイト、ラグビー部で汗を流す傍ら女の子とデート、と自由な生活をしていました。3年生の後期から研究室に所属し、地下水を有効活用する手法の一つとして地下ダムに関する研究を始めました。研究室の指導教授、西垣誠先生、そしてガーナから研究生として実験を一緒に行った仲間、ジョンとの時間が今の自分がいる舞台に繋がる布石だったのだなあ振り返るに思うことです。けれども英語の講義の成績は優(今のシステムでいうA)を取れたことは一度もないほど語学力は貧しく、ジョンとの会話も常に「but...だけどー」と繰り返していました。

大学院生時代

そんな学部生時代を過ごすうちに、「海外」、「国連」、「国際協力」といったキーワードが頭をもたげ出し、何かその分野に繋がる糸口はないものかと大学構内をフラフラしているときにめぐり合ったのが、EPOKという岡山大学が提携する海外の大学との1年弱の交換留学制度、そして国連地域開発センター(UNCRD)という組織への3ヶ月間のインターンシップの募集を唄う掲示板でした。結果的にこの両方の機会に恵まれ、岡山大学院在籍中にインターンシップと交換留学を経験することができました。これらのプログラムを通じて国際的な人材を育てようとする岡山大学の戦略、そして大学の職員、教授の方々の惜しみない情熱とサポートを頂いたことが、私の心に火をつけ、心が躍り始めたのです。

岡山を去って、その後

就職活動は交換留学で米国にいたため、帰国後少し遅れて始めました。私の専攻の修士生は民間企業では、開発コンサルタント、ゼネコンに就職する方が多く、私も同じように応募し面接を受け幾つかの企業から内定を頂くことができました。しかし、全く新しい世界でも挑戦してみたいという想いが膨らみ、結果的に自分にとって全く未知の分野で国際協力に通じる道として東京において難民支援の仕事に携わる事となりました。大学のキャリアアドバイザー、両親も私の決断に頭を傾げていましたが、結果的に自身の幅を、世界観を広げてくれる機会となりました。大学での研究は実験や数値解析を通して

先々の人々の生活や社会に役立つ技術や研究を行うということが中心でしたが、人と直接向かい合って解決策や対策を立てていく難民申請者支援の仕事にぐっと心を掴まされたことを覚えています。

英国、そしてアフリカへ

日本で難民支援という形で「国際協力」に携わることによって、もう一步「海外」、「国連」に背伸びをしようという想いから、「水」という自分の専門分野を深めようと決め、国連と連携して研究を行っている英国の水衛生工学研究センター（WEDC）においてPh.D. 博士プログラムの研究生として新たにスタートを切りました。UNICEFとの共同水事業で、アフリカのザンビアという国で、人々がどのようにして持続的に安全な飲み水を利用することができるかを定性的、定量的に研究をしていました。ほぼ3年間アフリカの農村で生活をしながら、自然科学、社会科学の観点から人々と水の在り方を肌で感じ学びました。マラリアにかかったり、奨学金が決定するまでひもじく3ヶ月で体重が15kg落ちたりと少しばかり大変なこともありましたが、現場の温度を感じながら仕事をする事の難しさと面白さに魅了されました。

現在の私は、ザンビア、エチオピアでの研究生活を終え、国際移住機関という組織に勤めています。世界的な人の移動（移住）の問題を専門に扱う国際機関の中で、私は水衛生分野の専門官としてアフリカの角と呼ばれる場所に位置するソマリアという国

で自然災害、紛争により避難を余儀なくされている方々への安全な水の提供、トイレ施設の向上、そしてソマリア政府関係者の人材開発といった分野を支援させていただき、現地の関係者と協力して最も脆弱な立場に立たされている女性や子供たちを中心にサポートをさせていただいています。誘拐、テロ、大旱魃、海賊、そして防弾チョッキを着てラクダを食べるなど日本の生活では少し馴染みのない輩に囲まれた環境は驚きの毎日ですが、微力ながらも毎日自分にできることを模索しながら活動しています。

最後に

みなさん、ぜひのびのびと背伸びをしてみてください。スポーツでも研究でも趣味でも、日本でも海外でも、舞台はどんなものでもいいと思います。真剣に何かにひたむきに楽しんでいる姿というのは自然と多くの人と、機会と繋がる事が多くあります。生きる事は表現することだと私は思っています。学校の友人、家族、先生達とのつながりを大切にして、自分自身の表現を探してみてください。かく言う私もちょうど先日、高校、大学とラグビーで共に汗を流した仲間と再会しお酒を交わして、その変わらぬ温かい人のつながりに感謝しているところです。みなさんと一緒にこころ踊る時代を生み出していけたら幸せです。

※本人への連絡を希望される方は、岡山大学学務企画課宛にお問い合わせください。

E-mail : koudai@adm.okayama-u.ac.jp



ソマリア国内避難民キャンプで暮らす子供たち



ソマリアの戦禍、大干ばつを生き抜く母と子

岡山大学を卒業された方に、
本学在学生の方達へのメッセージをお願いします。
皆さんの大学生活に役立てていただければと願っています。

人の輪を広げる所

ちょうきゆう つよし
長久 剛
医学部保健学科（2004年3月卒業）
姫路赤十字病院勤務

『大学は勉強をしに行く所』入学前はそんなイメージでした。もちろん、入学してからも勉強をすることに変わりはありませんでしたが、大学生活で一番得られたと感じているのは人とのつながりの幅広さです。入学当時は友達ができるのか？1人暮らしをうまくやっていけるのか？と、とても不安が強かったのを覚えています。しかも当時、同じクラスの中には同性が1人もおらず、億劫な日々を過ごしていました。その不安な毎日を解消してくれたのが部活やサークルを始めとした学外での活動でした。私はテニスサークルとゴルフ部という2つを掛け持ちしていましたが、そこでは同じ学科の先輩や同級生とのつながりだけでなく、他の学科や学部生との交流もあり、知り合いになる人の幅がとても広がりました。また、部活の試合等に参加することで他県の学生と交流する機会もあり、プライベートでグループ旅行に行くこともでき、とても充実した

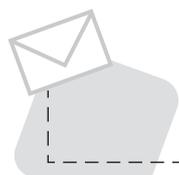


▲右が筆者

日々を過ごすことができました。今考えると、そういった勉強プラスαの活動に参加せず、人とのつながりがほとんどなければ、大学生活はとてもしんどかったと思います。その事もあり今では大学のイメージは『人の輪を広げる所』に変わりました。同じ勉強をするにしても、周囲の環境整備はとても大事です。豊富な蔵書数を誇る図書館といった設備環境に加え、心身ともにより良い環境に自分の身を置けるのは総合大学である岡大で勉強できたからだと思います。

私は2004年卒業ですので、病院に就職して約10年が経過しました。まだ10年かも知れませんが、10年経った今でも、病院内で同じ大学出身、同じ部活という事ですぐに溶け込みやすく、人間関係構築に役立っています。高校生の時、医療と言えば伝統ある岡大に行きたいと思って受験し、合格発表を見た時はとてもうれしかったです。広がった輪がその後の就職先でも活かされる。大学選びに間違いはなかったと実感しています。





海外の大学紹介

宇宙飛行士をめざし、 薬学部、博士課程そしてアメリカへ

大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）博士後期課程2年次生
日本学術振興会 特別研究員

やまだ しょうや
山田 翔也



薬学部、博士課程への進学

「宇宙飛行士になること」、私の高校時代からの目標です。宇宙飛行士は地上の研究者に代わり、宇宙で実験を行うため幅広い知識が必要とされます。薬学部であれば、化学や生物、物理など様々なことが学べることで、さらに岡山大学であれば実家の福山から近いと考え入学しました。日本で宇宙飛行士として認定されるには、宇宙飛行士候補者に応募し、採用されなければなりません。その応募資格の1つが自然科学系分野における博士号でした。また博士号は、就職後に海外留学の機会を得易いこと、アメリカなどは日本以上に学歴社会であるため博士号を持っていないとビジネスにおいて交渉相手として認めてもらえないことがある、と企業経験のある教員からも聞きました。このような背景に加えて博士後期課程の3年間は研究者に必要とされる素養を身につけるための期間だと考え、私は進学を決意しました。

私は高校時代から化学、中でも有機化学に興味がありました。さらに「薬を作る」との想いのもと、「分子」を生み出す有機合成に加え、作った「分子」の機能を培養細胞や動物を用いて評価する生物活性評価も行っている恩師の加来田先生の研究に興味をもち、ここで研究生活を送ってきました。現在私が行っている研究は、アルツハイマー病治療における薬の種になるものを、簡単かつ安価に見つける方法の開発を目指しています。自分の研究を楽しめていることも博士後期課程への進学を決めた大きな要因です。

日本学術振興会 特別研究員制度

博士前期課程までは両親の経済的サポートのもと勉強させてもらっていましたが、博士後期課程では学費、生活費を自分でなんとかしたいと思っていました。そのような中、日本学術振興会（学振）の特別研究員制度について恩師の加来田先生から教えていただきました。この制度は、博士後期課程在籍生と若手研究者を支援するものです。特別研究員に採用されると、生活費等に使える月20万円の奨励金と年間最大100万円の研究費の支給を頂けます。博士前期課程2年の時にこの制度に応募しました。応募の際には、博士後期課程の3年間で取り組む自分の研究の意義、計画などを書いた10ページほどの書類を提出し、その後、面接試験を受けました。研究内容に加え、学会での受賞歴や論文発表数なども評価されます。採用されるのは簡単ではありませんが、恩師の協力のもと、採用をいただけました。現在は両親に金銭的負担をかけることなく、研究に専念できる環境をいただいています。また、この奨励金によって独立した生計を営んでいることから、岡山大学の授業料免除対象にもなっています。さらに、研究費は学会に行く時や、海外で研究を行う時の旅費にも使えます。

アメリカ留学の決意

特別研究員に採用された博士後期課程1年の夏、私は学会発表と研究室の共同研究の打ち合わせのため、2週間アメリカに行く機会をいただきました。この滞

在中にアメリカで研究員をしている日本人の方とも出会い、そこでの生活についての話を直接聞くことができました。それまではあまり現実味のある存在ではなかったアメリカが、急に自分の身近に感じられるようになりました。宇宙飛行士になるためにはもちろん英語が必須ですが、私は英語に苦手意識がありました。しかし恩師が背中を押してくれたこともあり、博士後期課程の2年目に自身の研究を進めるための技術を学びに、デトロイトにあるカルマノスがん研究所に半年間行かせてもらうことになりました。

カルマノスがん研究所

デトロイトはミシガン州の南東部にある都市で、川を挟んでカナダにも接しています。お世話になった研究室は、以前のアメリカ滞在の際に訪問していたこともあり、不安はありませんでした。



カルマノスがん研究所



研究所内部



研究室でのセミナー風景



研究室メンバー（右から2番目が筆者）

研究室メンバーは教員1人、学生4人、実験補佐員1人と小規模ですが、アメリカ人、インド人、中国人と国際色豊かな研究室でした。カルマノスがん研究所はウエイン州立大学の中にあり、デトロイト医療センターという病院と併設されています。がん研究に特化しており、病棟と同じ棟に研究室があるため、がんの患者さんを目にすることも多くありました。私達が研究を行う目的は医療を通じて社会に貢献することであり、本学薬学部大学院でも、岡山大学病院薬剤部の見学や病院での診察の見学など、医療現場を実際に見ることができる講義が開かれています。「研究に没頭すると、ときにその先に病気で苦しんでいる患者さんがいることを忘れ、研究のための研究になってしまうこともある」という話をよく耳にします。その点、カルマノスがん研究所は、自分達の研究成果を届けなければならない人達を身近に感じられる環境でした。

アメリカでの生活

デトロイト市内は家賃が高いため、大学から 25 km ほど離れた所に部屋を借りました。デトロイトはアメリカの他都市と比べ、公共交通機関があまり発達しておらず、自家用車が必須です。私の場合は同じアパートに同じ研究室のアメリカの学生が住んでいたため、毎日その学生の車で研究室に通っていました。住んでいた地域、研究所には日本人は一人もおらず、英語を使わざるをえない環境だったので、英語を学ぶ上では非常に良い場所でした。また、日本とアメリカの学生の違いも感じる事ができました。もちろん人によると思いますが、アメリカの学生は何を喋るにしても自信を持って発言しており、教員と話している時でも対等な立場で話していました。「日本の学生はおとなしすぎる」と言われますが、実際にアメリカの学生と共に生活してみるとその違いもより感じられました。

渡米中にボストンで行われた学振主催のアメリカ在住日本人研究者の懇談会にも参加することが出来ました。50 名程の参加者の大半は、学振でアメリカに派遣されている研究者でした。各々の自己紹介の後、留学先の決め方、留学時に欲しかった情報、各自の野望などについて意見交換しました。多くの人が、行ったことも無い場所、会ったことも無い先生のもとに留学し、チャレンジしていました。そのような人達に出会えたのはとても刺激になりました。

また、以前から行きたいと思っていたジョンソン宇宙センターとケネディ宇宙センターにも行ってきまし



ボストンで出会った日本人研究者の方々と
(右手前が筆者)

た。そこではなんと、過去に3度のスペースシャトルミッションに参加した宇宙飛行士 Sam Gemar さんにお会いすることができました。「自分は博士課程の学生で、宇宙飛行士になりたいのでアドバイスをください。」とお願ひしたところ、「大きな夢を持っているだけでは不十分。教育ももちろん大事だし、大学だけにとらわれず企業へのインターンシップに参加することも大事だ。」とのアドバイスをいただきました。自分が目指すものと今の自分の立ち位置とを再確認することができたとても貴重な体験でした。



NASAの元宇宙飛行士Sam Gemarさんと

終わりに

半年間の留学で、研究だけでなく、語学、アメリカの文化など、様々なことを学びました。言葉の壁が無くなったわけではありませんが、実際にアメリカで生活してみなければわからないことを経験できたので、自信にも繋がりました。まだまだ挑戦して行きたいと思えるような半年間でした。留学にはお金もかかりますし、周りの人の協力も必要です。私の場合は、両親、恩師、学振、留学先の先生など多くの方々の支援のおかげで貴重な経験をすることが出来ました。ボストンでの懇談会では内閣府副大臣から、「誰でも留学支援を受けられる制度を整え、日本人の海外留学を推奨していく」とのお話がありました。

チャンスは与えられるもの、自分で掴むものなど色々ですが、それを生かすも殺すも自分自身です。大学生活は人生で一番チャレンジし易い時期ではないかと思っています。みなさんもぜひ貪欲に大学生活を送ってみてはいかがでしょうか。

L-café, 5月にオープン, 10月に来場者1万人達成! L-caféはもう英語だけじゃ物足りない!!

言語教育センター 准教授
宇塚 万里子

「L-caféのLって何ですか？」

「それは、人によって違います！」

Lから始まる単語を考えてみると、Language, Learning, Large, Love, Lucky…? 答えは1つではありません。みなさんがそれぞれ好きな言葉を選ぶように、L-caféと名付けました。

平成25年5月、L-caféがオープンし、10月には来場者が1万人を突破しました。以前のイングリッシュ・カフェから約3倍の広さにひろがり、4つのエリア（カフェ、アドバイジング、多目的、教室エリア）を持つ多機能なソーシャル・ラーニング・スペース/言語カフェに生まれ変わりました。一日平均150名以上の学生が、留学生と会話したり、レッスンに参加したり、英語教員のオフィスアワーを利用したり、E-learningをしたり、TVを見たり、くつろいだり、と様々な目的で利用しています。

そして今回は、岡大の新名所、ここL-caféで毎週行われている知る人ぞ知る英語以外のユニークな言語カフェの活動を紹介します。

●ドイツ語カフェ Deutscher Stammtisch

Stammtisch（シュタムティッシュ）とは常連客が囲むテーブルのこと。でも、ここでは誰もがみんな「常連客」です。最



初は「こんにちは：Guten Tag（グーテン・ターク）から、少しずつ少しずつ、ドイツ語が身近に感じられるようになりますよ。それと同時にドイツ人留学生たちの日本語もめきめき上達してゆきます。それもそのはず、コーヒーや紅茶を飲みながら過ごす「カフェ」は、コトバの違いを超えた「語らいの場」なのです。▶毎週月曜日 16:00～19:00 @一般教育C棟4階 教員ラウンジ

●フランス語カフェ Café Français

フランス語カフェ「カフェ・フランセ」はフランス語を学びたい、話してみたいという学生と日本語の言葉と文化に興味



を持つ留学生の交流の場です。フランス語で映画やお笑いビデオをみたり、現在のフランスに関する情報交換をしたりしています。これまでの企画としては、ジブリ作品の抜粋を上映して留学生にフランスでの日本文化について話をしてもらったり、ショートコメディを見ながらフランス人カップルの日常について話し合ったりしました。また、ノエル企画などもあります。（「ノエル」はフランス語でクリスマスを指します。）授業とは一味違ったcaféの雰囲気を味わいながら、みんなで岡山大学にフランス文化を再生しましょう。▶毎週木曜日 16:30～ @L-café

●中国語カフェ 中文茶房

中国語では週二回、カフェを開催しています。美味しいお茶を飲みながら、中国語にもっと触れてみませんか？



会話練習しながら、旅行・留学情報なども入手できます。中国茶を飲みながら、留学生と気ままに歓談しましょう。▶毎週火曜日 16:15～19:15 & 木曜日 16:30～19:30 @ L-café

●韓国語カフェ 이야기 (イヤギ)

「이야기」(イヤギ)とは韓国語で「お話」を意味する言葉です。その名前通り、韓国語カフェ「이야기」では韓国に興味のある人達が集まって、いつも和気藹々とした雰囲気



で楽しいおしゃべりの花が咲きます。夏の韓国語短期研修プログラム参加者や半年から1年間の韓国留学を終えて帰ってきた学生達、また韓国人留学生達もたくさんやって来て、韓国語と日本語について質問したり韓国語と日本の共通点や違いについて話をしたりして楽しい交流の時間を過ごしています。韓国語に自信が無くても大丈夫です。韓国に興味のある人、韓国人と友達になりたい人はぜひ韓国語カフェ「이야기」にお越しください！

▶毎週水曜日 16:30～19:30 @一般教育C棟4階 教員ラウンジ

●にほんごカフェ Sakura

岡山大学には40近い国から500名余の留学生が学びに来ています。そんな留学生と気軽に交流できる場の一つが、L-café内にある「にほんごカフェ Sakura」です。

年に数回のイベントや、普段の留学生との会話を通じて、相手の考え方に触れ、相互の交流を深めてみませんか。留学生の視点から見ると、これまでとは違った「日本社会」が見えてくるかもしれません。



「何を話したらいいかわからない」など、心配はいりません。カフェの学生スタッフがみなさんの交流のお手伝いをします。留学生との交流を楽しみましょう！▶毎週月曜日 & 木曜日 16:15～17:15 @ L-café

「外国語を学ぶと世界が広がる」岡大にいながらにして、様々な言語や文化を学んだり、留学生と交流できてしまうL-café(英語&その他外国語&日本語!)岡大生ならではの特典です。気軽に交流したい人から検定や留学に向けてガッツリ学びたい人まで、言語カフェはみんなの「やってみたい」を応援しています。



言語が得意な人も、
そうでない人も、今年は、
カフェに挑戦してみよう！



ネットで広がる図書館の世界

附属図書館学術情報サービス課 主査
たけした ひろゆき
竹下 啓行

1. はじめに

皆さんは大学図書館と聞いてどんなことを思い浮かべますか？大きな建物、古めかしい資料、カビ臭い書庫、そんな伝統や重みを感じさせてくれるのが大学図書館ではないでしょうか。ところが、そんな大学図書館も今やインターネットでどんどん利用できちゃう時代になりました。

ここでは、岡大図書館のサービスのうちインターネットを利用したものを2つ紹介します。

2. 学術雑誌は Web で読む！

本を置いていない図書館なんて考えられませんよね。大きな本棚がたくさん据えられ、一人の人間が一生涯かかっても読み切れないほどの本が置かれている、これが普通ですよ。ところが、最近では本のない図書館があるんだそうです。2010年3月にオープンしたテキサス大学サンアントニオ校の応用工学・テクノロジー図書館には（紙の）本が全くなくて、たくさんの電子書籍などを電子書籍リーダーで提供しているんだそうです。ちょっとビックリですよ。

過去に出版された貴重な本をたくさん持っている岡大図書館としては、いくらなんでも紙の本なしというわけにはいきません。でも、最新の学術情報については限りなく紙なしに近づいているんです。皆さんは「電子ジャーナル」って聞いたことありますか？要は Web で読む雑誌のことで、世界的に有名な学術雑誌のほとんどは今世紀初頭までに電子ジャーナル化されました。今や学術雑誌は研究者にとって図書館でパラパラめくるものではなく、研究室のパソコンから利用するのが当たり前になってい

ます。電子ジャーナルはネット上で24時間365日いつでも読めるので、図書館が閉まっている夜中でも読めますし、雨でびしょ濡れになりながら図書館まで出かける必要もありません。もちろん、雑誌の記事をそのまま自分のパソコンに取り込むこともできます。便利ですよ。

岡大でも、かの有名な『Nature』や『Science』をはじめ約8,100種類を購入しています。無料で公開されているものを合わせると2万種類近くの電子ジャーナルを読むことができますので、ノーベル賞受賞者の論文だって気軽に読めちゃいます。まだ読んだことのない方は、ぜひこの機会に Web で読む雑誌「電子ジャーナル」をお試してください。

ご利用は学内から岡大図書館ホームページ (<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>) にアクセスし、「電子ジャーナル・データベース」のバナーをクリック！



超有名な学術論文がタブレットPCで！
※岡大無線LANへの接続が必要です。

3. 自宅から日本一の図書館を使おう！

岡山県立図書館。開館以来8年連続で都道府県立図書館として来館者数・貸出冊数が日本一、3年連続で購入冊数も日本一、なんと新刊図書の7割近くを購入しているそうです。こんなすごい図書館が岡大からわずか3キロのところにあるんです。これを利用しない手はないですよ。お探しの本が岡大にないときはすぐに自転車に乗って出かけましょう。でも、ちょっと待ってください。もしあなたが県立図書館の利用者カードを持っているなら、わざわざ出かけていく必要はありません。

やり方は簡単です。まずは自宅や岡大のパソコンから県立図書館のホームページにアクセスして

(<http://www.libnet.pref.okayama.jp/>) 蔵書検索をしてください。読みたい本を見つけたら予約申込を

するだけ。その際「受渡館」を「岡山大学附属図書館」に指定するのを忘れなく。しばらくするとお知らせメールが届いて、県立図書館の本を岡大図書館で受け取れるようになります。もちろん、その本を返却するのも岡大図書館です。もしあなたが県立図書館の利用者カードを持っていないなら、ぜひ作ることをおすすめします。岡大図書館で読める本が格段に増えますよ。

詳細は県立図書館ホームページの「インターネット予約について」をご覧ください。

4. おわりに

岡大図書館ではこのほかにもインターネットを通じて様々なサービスが利用できます。日々の学習や読書にぜひお役立てください！



自宅や学内から県立図書館の本を予約して



岡大図書館で受け取り

- ※2014年3月現在の受取可能館は中央図書館(津島)のみです。
- 鹿田分館では2014年5月以降のサービス開始を予定しています。
- ※事前に県立図書館での利用登録(利用者カード作成)が必要です。
- ※岡大にない本だけ申し込みましょう。

編集後記

住み慣れた日本から世界に出てみる、世界の人たちと交流する。このようなグローバルな交流は、視点を変えるきっかけになります。これは決して人に限りません。大学も、交流を世界に広げることで、いろいろな刺激を受け、成長することができます。

岡山大学は、研究機能強化大学、臨床研究中核拠点病院にも選ばれ、国内では指折りの大学としてその存在感を高めつつあります。教育プログラム、研究活動を通じて、岡山、中四国、日本に留まらず、世界に存在感の認められる岡山大学に発展するでしょう。

医歯薬学総合研究科准教授 加来田 博貴

編集担当

教育開発センター広報専門委員会

久保田 聡, 橋ヶ谷 佳正, 紀和 利彦, 矢野 正昭, 天野 憲樹, 出村 和彦, 加来田 博貴, 八木 隆徳

表紙図案構成監修

橋ヶ谷 佳正

学務部学務企画課

バックナンバー

- No. 1 特集：「新カリキュラム・教務システムについて」
- No. 2 特集：「上制限」
- No. 3 特集：「授業評価アンケート」
- No. 4 特集：「外国語教育の在り方」
- No. 5 特集：「望ましい授業とは」
- No. 6 特集：「成績評価の在り方」
- No. 7 特集：「教養教育に求めること」
- No. 8 特色G P 紹介, 学生・教職員教育改善委員会活動報告 他
- No. 9 新しくなる教養英語教育, 現代G P 紹介 他
- No.10 20年度入学生から始まる GPA 制度, 特集：「大学ではこう学ぶ」 他
- No.11 学生支援の立場から見た教養教育, 特集：「使ってみよう岡大 e-ラーニング」 他
- No.12 アドミッションセンターの活動, 特集「大学ではこう学ぶ」 他
- No.13 社会にはばたく岡大生のためのキャリア開発センターを目指して, 特集「学士課程教育構築」 他
- No.14 世界を舞台に活躍していく岡大生のためにー国際センターの役割ー, 特集：岡山大学の外国語カフェ 他
- No.15 岡山のまちと共に「学都」をめざすー地域総合研究センターとは？ー, 特集「学士課程教育の構築」 他

上記は、OU-Voice ホームページよりご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/ou.html>

OKAYAMA
UNIVERSITY



OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学 OU-Voice 第16号

編集・発行

岡山大学教育開発センター 広報専門委員会

所在地・連絡先

岡山市北区津島中2-1-1 〒700-8530

電話：086-252-1111（代表） Fax：086-251-8440

E-mail：gkikaku@adm.okayama-u.ac.jp